

# 分野別プラン

## 1 健康福祉分野

(1) 分野の重要テーマ	高齢者・障がい者の居場所づくり			
(テーマにかかる現状と課題)	高齢者対策の現状では、「ふれあいセンター」「いきいきサロン」があるが、気軽に行けない状況も見受けられる。町の高齢者率は19.2%で更に増加傾向、老老介護、認知介護という深刻な事態も心配されている。障がい者対策では、「太陽の家」「みよし工房」等があるが、気軽に行ける環境が必要である。			
(2) 事業メニュー	施策・事業名	事業分類	事業概要と協働効果	協働担当課
	1 高齢者・障がい者の居場所づくり事業	-	高齢者・障がい者が気軽に行ける居場所を地域内に設置する。協働によって充実した公共サービスが可能になる。	高齢者支援課・健康福祉課
	2			
(3) モデル事業	<p>1) 事業名 高齢者・障がい者の居場所づくり事業</p> <p>2) 事業形態 直轄事業</p> <p>3) 協働範囲 企画・運営・実施</p> <p>4) 協働担当課 高齢者支援課・健康福祉課</p> <p>5) 事業目的及び協働効果 高齢者・障がい者が気軽に行ける居場所を住み慣れた地域内に設置。居住区を公平にカバーするため、自宅から500m以内、将来的には10箇所必要。効率性を追求し事業継続を図る。安全性の確保を優先し、施設・人材に万全を期す。協働により、サービス縮小・廃止の事態に陥らず、又、住民の関与によって充実した公共サービス、社会参加、地域相互扶助、雇用促進、生きがいつくり、医療費削減、世代間交流等の効果が期待できる。</p> <p>6) 事業内容 会場:当面は、集会所や小中学校の空き教室等公共施設を活用 対象者:当面は単独通所が可能な人(要介護者等、他の公共サービス受けられる人を除く) 開設日:当面、週1回、10～16時を想定 体制:当面は町職員と住民ボランティア。将来的にはNPO法人等体制を整え、町から管理委託又は業務委託で、住民が責任をもつ。 経費:公費及び寄付金、(状況により利用者負担) その他:利用者意向を尊重し、楽しく有意義な場所(趣味・おしゃべり・飲食・歌・折り紙・体操・世代間交流…)。ルール作りは利用者を巻き込んで行う。</p> <p>7) 役割分担 住民側 事業の担い手(ボランティア・NPO) 行政側 事業予算の確保</p> <p>8) 実施に当たっての課題と対応策 ①対象者意向調査・宣伝活動(マーケティング) ②場所の確保 ③人材確保 ④NPO法人等住民体制整備</p>			

### 【(2)「事業メニュー」の事業分類】

- ①重要課題だが長期的検討又はまとまった予算が必要な施策・事業
- ②住民主体で経費がかからず、すぐに実現可能な事業(直轄事業/モデル事業候補)
- ③現状では行政のみの事業だが、協働で実施すると効果的な事業(直轄事業/モデル事業候補)
- ④まちづくりネットが支援し、別の担い手の育成を働きかける事業(つながり支援事業/〇〇住民会議、ワークショップなど)
- ⑤既存の住民活動があるが、協働手法による支援・連携が必要な事業(つながり支援事業/ネット勧誘、事例発表会など)
- ⑥当面は行政のみの実施として経過を見守るが、将来的に何らかの協働を検討すべき事業
- ⑦その他